

# 災害に備え物資常備

## 松阪紀勢版

### 飯南高も「白い小箱運動」

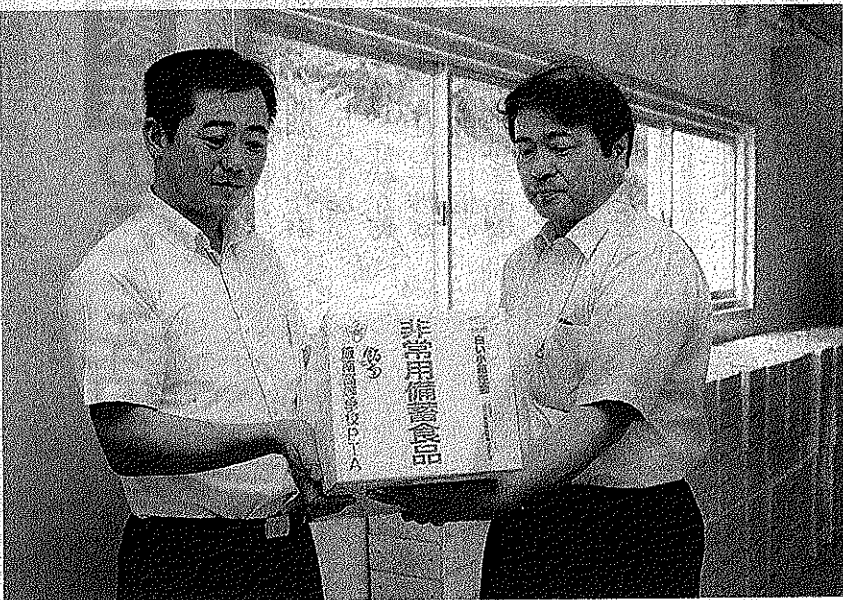
松阪市飯南町粥見の県立飯南高校が、全生徒と教職員分の災害用物資の常備を始めた。物資は缶入りパンや飲料水など一日分の食料が主で、簡易携帯トイレなども入った備蓄セット「白い小箱」を校内に備えた。生徒に命の大切さや防災への理解を深めてもらい、さらに障害者の就労や社会貢献を考えるきっかけになると期待されている。



小箱には、五百ミリリットルのペットボトルの飲料水が二本。ほかに氷砂糖、ようかん、野菜ジュースに加え、除菌ティッシュなど七品目が入り、一日分を想定している。どの品も三年間は保つ。ワンセット

で千二百円。

(竹田弘毅)



飯南高は山間部であり、大雨での土砂崩れなどで、学校前を通る国道166号が遮断されると、市の中心市街地との通行が途絶える可能性がある。全校生徒二百三十二人のうち、約三分の二は中心市街地方面から通っており、万一に備え、全生徒と教職員分として計三百セットの導入を決めた。

同高は日本非常食推進機構(四日市市)と協定を結び、PTAの予算で小箱を購入。非常食などを備蓄する習

①災害時、生徒が一日を過ごすための非常食などが入った「白い小箱」の中身 ②日本非常食推進機構から災害用備蓄品セット「白い小箱」を受け取る井川佳久教頭 ③松阪市飯南町粥見の飯南高校

慣を身に付け、生徒に自分の命は自分で守る「自助の精神」を養ってもらおう。非常食などの箱詰め、納品などは機構が最寄りの障害者作業所に委託しており、障害者の支援の側面もある。実際、飯南高分も市内の障害者支援施設の利用者が箱詰めし、二十九日に学校に運び込んだ。

同高は今後毎年、同じセットを購入する予定で、三年後には一人三日間分を備えられるとしている。使わなかった小箱は、卒業時に生徒に家に持って帰ってもらおう。自宅に備蓄を続けるか、被災地などに支援物資として贈るなど活用してもらおう。

小箱をめぐる機構の取り組みは「白い小箱運動」と呼ばれ、生徒に障害者の就労や社会貢献について学んでもらう狙いもある。県内の高校でこの運動に取り組むのは十校目。九月一日には松阪高校も納入するところ。

機構の古谷賢治さん(右)は「高校への導入で、松阪市の全ての家庭が、災害に備えるきっかけになれば」と話している。井川佳久教頭(左)は「自分の身を自分で守るため、生徒たちにはきちんと災害に備えることを学んでほしい」と話した。



白い小箱に備蓄品を詰め込む様子



白い小箱の活用事例



災害発生時の対応



白い小箱の活用事例



# 白い小箱運動

「自助」「共助」「公助」の連携で  
生命を守り、世界に貢献する

## ご存じですか? 「白い小箱運動」

「震災・災害時に備え、各人が「白い小箱」を置き、個人備蓄を推進する運動です【自助】。さらに支援物資として被災地に送ったり、賞味期限が5年以上あるものを3年で入れ替えることで途上国への備蓄教育(食糧支援)ができます【共助】。また、公的機関との連携で、助け合い・絆の精神を深めます。箱詰め、発送などの作業は障がい者作業所に委託し、障がい者の就労支援にも役立っています。皆さんも「職場」「学校」「家庭」に、「白い小箱」を置きませんか?

多数の企業・団体・地域のご参加をお待ちしております

一般社団法人 日本非常食推進機構 (JEFO)

〒512-0931 三重県四日市市浮橋1丁目4-3  
TEL 059-328-5345 FAX 059-351-1917



白い小箱(一般家庭用)

白い小箱(一般家庭用)は、災害発生時に備え、個人備蓄を推進する運動です。賞味期限が5年以上あるものを3年で入れ替えることで途上国への備蓄教育(食糧支援)ができます。また、公的機関との連携で、助け合い・絆の精神を深めます。箱詰め、発送などの作業は障がい者作業所に委託し、障がい者の就労支援にも役立っています。皆さんも「職場」「学校」「家庭」に、「白い小箱」を置きませんか?